

## II. 研修プログラムと 参加者の学び

※氏名・所属は参加当時のものです。  
※教員による原文を生かしておりますので、  
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。  
また、記載内容はJICAの見解とは異なる場合があります。



# 研修全体の日程



	場所	日程	内容
第一次 事前研修	オンライン	2024/6/22(土) 10:00~18:00	北海道・東北合同研修 全国合同研修
第二次 事前研修	札幌国際交流館 (リフレサッポロ)	2024/7/13(土) 13:00~18:00	国際理解教育セミナー【実践編】
	北工房 さんまるさん	2024/7/14(日) 9:00~13:00	現地研修に向けた情報の共有、体験的教材体験等
出国前研修	羽田空港第1ターミナルビル6F オリオンA	2024/7/27(土) 15:00~17:00	北海道・東北合同研修 北海道・東北、それぞれの第二次事前研修の情報共有
海外研修	ザンビア共和国	2024/7/27(土) ~8/5(月)	学校訪問、児童/生徒/教員、地域住民との交流やインタビュー、JICAプロジェクト現場視察、JICA海外協力隊活動視察、NGO活動現場視察等
帰国後研修	かでの2.7 道民活動振興センター	2024/9/14(土) ~9/15(日)	指導案検討会 研修参加者は指導案を作成、他の研修参加者および関係者と指導案を共有、意見交換
成果報告会	JICA北海道(帯広)センター 対面とオンラインでの開催	2025/1/12(土) ~1/13(日)	国際理解教育セミナー【共有編】 成果報告会を一般公開し、研修参加者の研修報告および授業実践報告を行う
成果品の 作成		2025/3月	研修参加者の海外研修報告書及び実践報告書を基に成果品として報告集を作成、関係者に配布(電子版および簡易製本版)

札幌国際交流館(リフレサッポロ) 札幌市白石区本通16丁目南4-26  
 北工房さんまるさん 札幌市中央区北1条西15丁目1-3大通ハイム303  
 かでの2.7道民活動振興センター 札幌市中央区北2条西7丁目1



2024年度 JICA北海道教師海外研修（ザンビア）

## 第一次事前研修 プログラム

日時：2024年6月22日（土）10:00～18:00

場所：オンライン

参加：研修参加者 16名（北海道/東北）、開発教育アドバイザー2名、開発教育ファシリテーター1名  
JICA 北海道、JICA 東北、青年海外協力協会（JOCA）

9:45～	受付
10:00～10:05 (5分)	開会挨拶 JICA 北海道(札幌) 桐山あす美
10:05～10:10 (5分)	【研修全体の流れ】 JOCA 石井優子
10:10～10:50 (40分)	【参加者自己紹介、アドバイザー・スタッフ紹介】(1人2分) ・研修にける思い ・研修後、児童・生徒に見せたいこと伝えたいこと
11:00～12:00 (60分)	【オンライン合同研修(全国)】 ・主催挨拶 5分 ・教師海外研修の概要・研修の目的 10分 ・国際理解教育/開発教育の概要、授業実践について等 15分 ・安全対策の説明と確認（JICA 安全対策研修の受講） 10分 ・海外旅行保険に関する説明 10分 ・質疑応答 10分
12:00～12:45 (45分)	各自昼食等
12:45～13:35 (50分)	【国概要・安全対策・健康管理】 JICA アフリカ第3課 鈴木泰地
13:35～13:40	休憩
13:40～14:40 (60分)	【4つのわたし1つはウソ】(19名×3分=57分 発表) ・ワークを通してお互いを知る時間 JOCA 石井優子
14:40～14:45	休憩
14:45～15:35 (50分)	【講義】国際理解教育概論(研修の目的を含む) 橋詰典明アドバイザー(札幌)
15:35～15:45	休憩
15:45～16:15 (30分)	【JICA 海外協力隊ザンビア体験談】 鈴木精ファシリテーター(東北)
16:15～16:45 (30分)	【参加型手法体験】 水谷由美アドバイザー(帯広)
16:45～17:30 (45分)	【諸連絡】JICA 北海道 / JICA 東北 【閉会】集合写真



# 研修日記

6月 22日	研修名 第一次事前研修	氏名 青山 絢子
--------	-------------	----------

## ●研修の内容、行なったこと

- ・参加者自己紹介、アドバイザー・スタッフ紹介
- ・教師海外研修の概要・研修の目的
- ・開発教育/国際理解教育の概要、授業実践について等
- ・安全対策の説明と確認（JICA安全対策研修の受講）
- ・海外旅行保険の案内
- ・ザンビア共和国概要/安全対策/健康管理
- ・4つのわたし1つはウソ

【講義】国際理解教育概論(研修の目的を含む)

JICA海外協力隊ザンビア体験談

参加型手法体験（お世話になったもの）・ジャムボード使用



## ●研修で得た学び

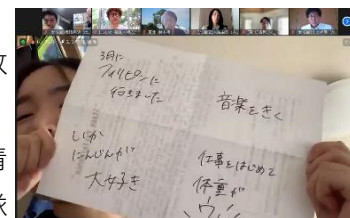
今回の研修を通じて、教員は異文化理解と国際協力の重要性を体験し、日本の教育現場にその知見を取り入れることが一番の目的だということを確認しました。自分の経験やスキル向上よりもそちらがメイン事項であることに気づかされました。また、開発教育/国際理解教育の授業実践の紹介を通じて、生徒の異文化理解や世界観を広げる教育方法を学ぶことができました。安全対策の研修と海外旅行保険の案内を通じて、リスク管理能力が向上し、これから安全な研修活動への準備ができると思います。そして、国概要や健康管理の理解を深めることへの足場架けとなる国の説明があったことで、現地での効果的な行動計画と健康維持につながると感じました。また、JICA海外協力隊のザンビア体験談からは、実践的な開発教育の成果と課題に対する深い理解が得られたと感じました。

### Beloved Country Zambia



## ●研修を受けて感じたこと

この研修では、異なる文化を体験し、国際協力の意義を実感しました。開発教育/国際理解教育の実践を通じて、生徒に異文化理解の大切さを伝える方法を学びました。安全対策と海外旅行保険の重要性も身にしみました。現地の国情を知ることができ、健康管理についての準備ができそうです。JICA海外協力隊のザンビアでの体験談からは、現場でのリアルな課題と解決策を学び、地域との深いつながりを感じました。教育の場で国際交流を促進し、生徒に世界の多様性を伝えるための貴重なヒントとなりました。また、自己紹介・ワークを通して、様々な経歴や体験をしている先生やアドバイザーの方々が多くいることがわかり、これから交流を深めることが楽しみになりました。





## 第二次事前研修 プログラム(1日目)

日時：2024年7月13日(土) 13:00~18:00

場所：札幌国際交流館(リフレサッポロ)ライラックホール

参加：研修参加者8名(北海道)、一般参加者、開発教育アドバイザー2名、外部講師4名  
JICA北海道、青年海外協力協会(JOCA)

目的：開発教育・国際理解教育に対する興味関心を持つことからさらに広げ、実際に教材作りやワーク作りの手法を学ぶことを目的とする。①ゲーム教材を使用したワーク、②ロールプレイ教材を使用したワーク体験をしながら、問題意識の気づきやワークを作るための着眼点の習得など、国際理解教育の担い手の充実を目指す。

【国際理解教育セミナー】		進行：JOCA 石井優子
12:45~	受付	
13:00~13:05 (5分)	国際理解教育セミナー開催挨拶	JICA北海道(札幌) 阿部裕之
13:05~13:15 (10分)	【アイスブレイク】 「もしも、あなたが教材を作るなら」	JOCA 石井優子
13:15~14:00 (45分)	① 【ワークショップ】 小学校 マッチングゲーム、ミステリーバッグ (ゲーム教材・技法を中心に教材作りの視点から) 講師：札幌市立伏見小学校 佐久間みのり教諭	
14:00~14:05	休憩	
14:05~14:50 (45分)	② 【ワークショップ】 中学校 ロールプレイ (ロールプレイ教材・技法を中心に教材作りの視点から) 講師：札幌市立幌東中学校 柴田峰子教諭	
14:50~14:55 (5分)	休憩	
14:55~15:05 (10分)	「もしも、あなたが教材を作るなら」 ワーク後の振り返り(ワーク前との比較で感じたこと・考えたこと)	
15:05~15:15 (10分)	【国際理解教育セミナー実践編を振り返って】 総評	橋詰典明アドバイザー(札幌) 水谷由美アドバイザー(帯広)
15:15~15:20	【アンケート】 終了	

【教師海外研修第二次事前研修】		進行：JOCA 石井優子
15:30～16:00	【JICA 北海道(札幌)について】	JICA 北海道(札幌)所長 阿部裕之
16:00～16:50	【草の根技術協力事業とは】 【草の根 WASH（水、トイレ、衛生）プロジェクト】（下記※参照）	JICA 北海道(札幌) 桐山あす美 北海道大学大学院保健科学研究院人類生体学研究室 講師：佐井旭助教 講師：シコポ・ニャンベ助教
16:50～17:00 (10分)	休憩	
17:00～17:20 (20分)	【国際理解教育セミナー実践編を振り返って】 ～ザンビア研修にどう結びつけるか～	橋詰典明アドバイザー(札幌)
17:20～17:50 (30分)	【ザンビアでの旅程確認】 ・渡航手続き、訪問場所等について ・ザンビアにおける JICA 取組紹介	JICA 北海道(札幌) 桐山あす美
17:50～18:00 (10分)	【事務連絡・集合写真】	
18:00	終了	

※ 【草の根 WASH（水、トイレ、衛生）プロジェクト】とは…

JICA の草の根技術協力事業を活用して北海道大学大学院保健科学研究院がザンビア共和国で実施するプロジェクトです。感染症の蔓延予防・防止のために子どもや若者が主体となり、多様なステークホルダーと協働で WASH 課題の解決に自律的に取り組むモデルの共創を目指しています。

このプロジェクトにおける現地パートナーが、「ジコランガ」という団体です。

【ジコランガ】とは…

ザンビアの首都ルサカ周辺都市部の子どもや若者で構成され、水・衛生・衛生管理に関連する健康とウェルビーイングの向上を目指す団体。



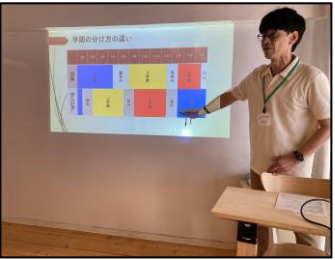
※ウェルビーイング…身体的、精神的、社会的に満たされている状態





# 研修日記



7月 13日	研修名 第二次事前研修 1日目	氏名 平山 将典
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>今回の研修では、前半は「もしも、あなたが教材をつくるなら」という観点から、2人の講師のワークショップに参加しました。小学生から大人まで楽しめるゲーム教材から、現地の人の気持ちになり、どう課題解決していくか真剣に考えさせられたロールプレイまで、どのワークも洗練された教材で学び多き時間でした。後半は、JICA草の根技術協力事業WASHプロジェクトについての説明や前半のワークショップの振り返り、ザンビアの旅程の確認等を行いました。また、北海道チームで着用するポロシャツを配布しました。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>講師の佐久間先生のワークは小学生でも楽しめるゲーム教材。ミステリーバッグには何が入っているのか想像したり、実物を見てどの国か考えたり、マッチングゲームでは、ババ抜き感覚でゲームを楽しめました。チームでどのカードがペアなのかカードをオープンにして考える時間も有意義でした。教材にゲームの要素を少しでも入れると、児童たちの積極的な参加が期待でき、外国文化を理解するだけでなく日本文化についても理解する手法が大変有効だと感じました。講師の柴田先生のワークは、架空の町の課題についてロールプレイをして考えました。動画や資料を読み込む必要性や積極的になれない生徒への声掛けなど難しい部分があることや、同じ登場人物で集まって作戦会議したり短い台詞を予め用意しておくなどの工夫も参考になりました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>2つのワークショップから、相当時間をかけて教材準備している背景が伺えました。私もそれ以上の熱量で教材作成と授業実践をしていきたいと感じました。授業づくりを考えると伝えたいことが山積になりそうなので、できるだけシンプルに、伝えたい、考えさせたい内容は1つに絞るような必要性を再確認しました。また、WASHプロジェクトの活動からザンビアの水不足やゴミ問題を見るだけでなく、現地の職員からの話を聞いたこと、旅程の確認等をしたこと、短い時間でしたが参加者とコミュニケーションが取れたことで、ザンビアに行く意識が徐々に芽生えてきました。配布してすぐJOCAの沢井さんにポロシャツを着用していただけたことが嬉しかったです。</p>		



## 2024年度 JICA北海道教師海外研修（ザンビア） 第二次事前研修 プログラム（2日目）

日時：2024年7月14日(日) 9:00～12:30

場所：北工房さんまるさん


参加：研修参加者8名(北海道)、開発教育アドバイザー2名、外部講師2名  
JICA 北海道、青年海外協力協会（JOCA）

【第二次事前研修（2日目）】		進行：JOCA 石井優子
9:05～9:50 (45分)	<b>【ザンビア宿題発表】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ザンビアの衣食住、観光文化、(踊り、音楽、芸術など)</li><li>ザンビアの産業、経済、外交、日本との関係、その他国際社会との関係</li><li>ザンビアの教育制度、学校、政治、社会システムなど</li><li>アフリカ(北・南・西・東)の違い</li></ul> <b>【ザンビア座談会】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ザンビアにかかる質問回答</li></ul> <p style="text-align: right;">講師：市立札幌清田高等学校 清水純</p>	
9:50～10:00 (10分)	休憩	
10:00～10:30 (30分)	<b>【研修にむけて備えたこと】</b> 2023年度教師海外研修キルギス参加者(団長) <p style="text-align: right;">講師：当別町立とうべつ学園 伊藤麻美</p>	
10:30～10:35 (5分)	休憩	
10:35～11:25 (50分)	<b>【体験的・対話的 教材体験】</b> 「SDGs 理解につながる教材を体験しよう」 ハシムさんと学ぶ、無人島ゲーム <p style="text-align: right;">水谷由美アドバイザー(帯広)</p>	
11:25～11:30 (5分)	休憩	
11:30～12:00 (30分)	<b>【第二次事前研修・2日間の学びを通して】</b> <p style="text-align: right;">橋詰典明アドバイザー(札幌)</p>	
12:00～12:30 (30分)	<b>【役割分担・参加者の時間】</b> 打ち合わせ等、参加者が自由に使う時間 ※役割分担(団長/副団長/会計/交流係/記録係) 交流案/お土産案/担当物品についてなど <p style="text-align: right;">参加者のみなさん</p>	
12:30	アンケート 事務連絡 集合写真 終了	



# 研修日記



7月 14日	研修名 第二次事前研修 2日目	氏名 中尾 綾香
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ザンビアの宿題発表、座談会</li><li>・研修に向けて備えたことの確認</li><li>・体験的・対話的 教材体験</li></ul> <p>SDGs理解につながる教材の体験と、授業づくりのポイント等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第二次事前研修、2日間の学びを通して まとめ</li></ul>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>体験的・対話的な教材について、実際に自分たちが体験しながら学びました。活動を通して、自分たち日本人の意見と、教材に登場したマリ人ハシムさんの意見を比較し、SDGsについて「気が付けば学んでいる」という状態を体験することができました。導入から展開へのスムーズな流れや、SDGsについて自然と興味湧く教材の大切さを改めて感じる事ができました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>講師の清水先生との交流を通して、ザンビアについて多くのことを知ることができ、実際に目で見て、体験したいという気持ちが大きくなりました。</p> <p>水谷アドバイザー、橋詰アドバイザーからの講義を通して、「自分が何を伝えたいのか」を軸に授業を組み立てることと、生徒の気づきを大切に授業を組み立てる大切さを学びました。</p>		



## 2024年度 JICA北海道教師海外研修（ザンビア）

# 出国前研修 プログラム

日時：2024年7月27日（土）15:00～17:00

場所：羽田空港第1ターミナルビル6F オリオンA

参加：研修参加者16名(北海道/東北)、開発教育アドバイザー(北海道)1名、  
開発教育ファシリテーター(東北)1名、JICA北海道、JICA東北、北海道新聞記者

15:00～15:40 (40分)	<b>【事前研修内容の共有】</b> 北海道チーム 10分+5分質疑応答 東北チーム 10分+5分質疑応答 進行：橋詰アドバイザー(北海道)  <b>【事前研修を終えてのコメント】</b> 橋詰アドバイザー(札幌)/鈴木ファシリテーター(東北)
15:40～16:10 (30分)	<b>【Destiny 訪問班（4グループ）の決定と打合せ】</b> グループ決め 顔合わせ 交流内容の共有
16:10～16:30 (20分)	<b>【現地フィールドワークでの心構え・授業づくりの検討】</b> ※小/特別支援・中・高の3グループに分かれて <b>【フィールドワークでの心構えについて】</b> 橋詰アドバイザー(札幌)/鈴木ファシリテーター(東北)
16:30～16:50 (20分)	<b>【校種グループにて、情報交換】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●どんな授業を検討しているか</li><li>●そのためにどんな素材・情報が現地で必要か</li><li>●どの訪問の際、どんな情報収集活動をしたいか</li></ul>
16:50～17:00 (10分)	<b>【連絡事項】</b>

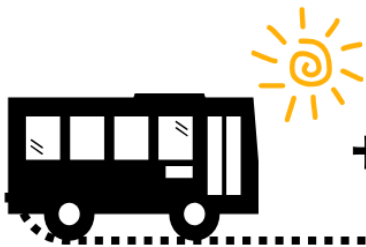


# 研修日記



7月 27日	研修名 出国前研修	氏名 杉村 萌
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>東北チームと羽田空港にて合流し、貸会議室オリオンにて15時より、チームビルディングを行なった。主な内容は、北海道、東北チームそれぞれが事前研修で学んだことを紹介したり、互いの研修内容を聞いて感じたこと等を意見交換したりした。また、鈴木ファシリテーターから、現地でのフィールドワークに向けて、価値観を押し付けた見方や自分の物差しに当てはめず、真っ白な状態で見ることの大切さ等、心構えについてもアドバイスをいただいた。</p> <p>さらに、5月末までJICAザンビア事務所に勤務していた二見さんもお夫婦で駆けつけてくださり、激励の言葉や現地の様子を教えてもらうなど、ザンビアでの研修に向かう気持ちをさらに高めていただいた。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>東北チームと事前研修の学びを共有できたことが、大変貴重な時間であった。特に今回視察する丸森プロジェクトに大きく関わっている、宮城県丸森町を訪問し、現地の方のお話を聞いてきたことを共有いただけたことは大変興味深いものだった。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>東北チームと合流し、ザンビアに向けていよいよかと気持ちの高まりを感じた。めったにできない経験だからこそ、より多くのことを学び、感じ、授業作りに向けての気持ちを新たにすることができた。</p>		





# ザンビア現地研修の行程



	日付	曜日	場所	訪問先
1	2024/7/27	土	日本発	午前：最寄空港、駅を出発→羽田空港内の研修場所に集合 午後：出国前研修（羽田空港近郊） 団員顔合わせ・チームビルディング等
2	2024/7/28	日	ドバイ経由 ルサカ着	00:05 羽田発 EK313 EMIRATES (10hrs40mins) 05:45 ドバイ着 09:25 ドバイ発 EK713 EMIRATES (7hrs10mins) 14:35 ルサカ着 ホテル移動
3	2024/7/29	月	ルサカ	09:10 JICA 事務所 (伝統布でのシャツ製作希望) 09:30~10:30 JICA 所長よりブリーフィング 11:00~12:00 チャイナマ特別支援初等学校 (村上恵里佳隊員【障害児・者支援】訪問) 13:00~14:30 昼食 15:00~16:00 カニヤマレベル1 総合病院 (伊藤亨隊員【医療機器】訪問)
4	2024/7/30	火	ルサカ	09:30~14:00 丸森町プロジェクトサイト視察 (昼食作り) 15:00~16:30 チランガ郡農業事務所 (細谷和喜隊員【野菜栽培】訪問)
5	2024/7/31	水	ルサカ	09:00~11:00 Destiny コミュニティスクール (中野秀美隊員【青少年活動】活動先訪問) 11:30~14:00 National Science Center 14:20~15:45 デービッドカウンダ STEM 中等学校 (小野亘隊員【理科教育】訪問)

6	2024/8/1	木	ルサカ	<p>午前 草の根 WASH プロジェクトサイト視察 (Twatasha School)</p> <p>12:00~13:30 昼食 14:00~14:30 在ザンビア日本大使表敬訪問 15:00~16:00 国立ルサカ博物館</p>
7	2024/8/2	金	ルサカ	<p>09:00~10:00 ザンビア国ルサカ市きれいな街プロジェクト視察 ゴミ処分場視察</p> <p>ホテルへ戻り着替えなど 12:30~14:00 昼食 14:30~15:30 JICA 事務所へ視察報告 (所長) 15:30~ 伝統布製のオーダーシャツ受渡し</p>
8	2024/8/3	土	ルサカ発	<p>11:00~13:00 ルサカ国立公園 (象の孤児院訪問) 14:00~16:00 イーストパーク・モール →ガーデン・コンパウンド 昼食、お土産購入など</p> <p>21:35 ルサカ発 EK714 EMIRATES (6hrs55mins)</p>
9	2024/8/4	日	日本着	<p>06:30 ドバイ着 07:50 ドバイ発 EK312 EMIRATES (9hrs45mins) 22:35 羽田空港着 ホテルへ移動</p>
10	2024/8/5	月	国内移動	<p>午前 ホテルより移動 羽田空港→各自移動</p>



# 研修日記



7月 28日	研修名 ザンビア到着日	氏名 松村 秀明
--------	-------------	----------

## ●研修の内容、行なったこと

羽田空港から11時間以上ほどかけて中継地点のドバイ国際空港へ。ルサカまで3時間くらいあるので、空港内を散策。マクドナルドがあるので朝マックを購入する。チーズポテトバーガーとポテトとコーヒーのセットで日本円1080円也。空港内の標識でお祈りをする部屋があることを発見。また、トイレには入ってすぐの場所に足を清めるところがあるなど、宗教が生活に直結している現実社会を痛感した。飛行機出発が遅れて16時30分頃にルサカに到着。気温は30度くらい。風もありそんなに熱いと感じない天気だ。まずは、空港の外で両替をする。100USドルで、2550クワチャ。ただ、20USドル札以下の両替はレートがもっと低くなっていた。



空港からJICAのバスに乗ってホテルSTAYEASYへ。途中、夕陽を横から浴びながらKFCやザンビア大学、PUMAという名のガソリンスタンドなどを通り抜ける。ガソリンは、1リットル180円くらいということで日本よりも高い。ホテルでチェックインした後は、北海道グループみんなでホテル真向いのショッピングモールに行き、ザンビアの有名バーガー店Hungry Lionへ。男どもは、看板メニューであるトリプルビックボスバーガーを注文。きれいに食べるのに苦戦しながらも完食！そしてスーパーへ。お酒を飲む三人は、ザンビアのビールMOSIを購入。ホテルで無事に到着したことを讃えあった。



## ●研修で得た学び

ドバイ国際空港では「ありがとう」など簡単な言葉をアラビア語で、ザンビアではニャンジャ語を使ってみた。英語でコミュニケーションは取れるが現地の言葉を使用すると、その土地の人により喜んでくれた。



## ●研修を受けて感じたこと

モールを歩いている際、何度かお金を乞う子どもが近寄ってきた。もちろん、我々は断っていたが、胸が張り裂けるようなつらく悲しい気持ちになった。どうしたらよいのか。今後、現地のJICAや協力隊の方々などと話して深めていきたい課題だと感じた。



7月 29日	研修名 ザンビア研修 2 日目	氏名 川上 光陽
--------	-----------------	----------

●研修の内容、行なったこと

- JICAザンビア事務所にて、館山所長よりブリーフィング
  - ・ JICAザンビア事業の概要について
- チャイナマ特別支援初等学校訪問
  - ・ JICA協力隊員、校長による学校概要の説明
  - ・ 聴覚障害を持つ生徒のクラス見学
  - ・ 児童生徒との交流
- カニャマレベル1 総合病院訪問
  - ・ JICA協力隊員による施設の説明、施設見学

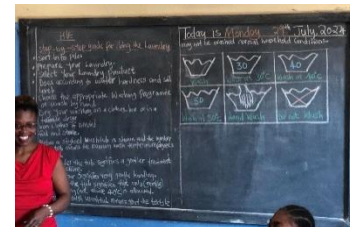


●研修で得た学び

・ 館山所長の話より、ザンビアが抱えている3つの課題について教えていただいた（①人口密度の低さが、水や電気などのインフラ整備で制約になっている②銅以外の産業が育たない③内陸国のため、輸送コストが高い）。JICAの具体的な取り組みとしては、輸送経路確保のためのボツワナとの間の橋の建設事業や、湿地帯での稲作のような農業開発が挙げられる。

・ チャイナマ特別支援初等学校では、LD（学習障がい）やダウン症などの特性ごとに学級を分けるのではなく、まずはレセプションに入り、できることに合わせて進級していくことが分かった。男性スタッフ7名、女性スタッフ48名で12000人の児童生徒の指導を行っているため、人手不足が深刻である。

・ カニャマレベル1 総合病院では、最も多い患者の年齢層は30代。若者が感染症の影響を受けやすいこと、都市部に移動した若者がそこで病気になること、妊娠、出産の医療サービスを受ける患者が多いことなどによる。



●研修を受けて感じたこと

・ チャイナマ特別支援初等学校をバスで訪れた際に、たくさんの子どもたちが笑顔で迎えてくれた光景が心に残っている。メモをしながらインタビューをしていると、子どもたちに「ノートを貸してほしい。」と言われ、自分の名前を書くための行列ができた。人懐っこく、自分のことを知ってもらいたいという思いが強い子どもが多いように感じた。

・ カニャマレベル1 病院で撮影した右の写真は、外来・入院患者棟を建設し、必要な医療機材の整備をするために、日本政府が無償資金援助をしたことを表している。開発途上国が発展していくために日本が協力・支援している姿を、帰国後に日本の人たちに正しく伝えたいと強く思った。





# 研修日記



7月 30日	研修名 ザンビア研修 3 日目	氏名 中尾 綾香
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ JICA 草の根技術協力事業「小規模農家における市場志向型営農普及プロジェクト」の視察</li><li>・ チランガ郡農業事務所「JICA 海外協力隊：細谷和喜隊員が野菜栽培について伝える活動」を視察</li></ul>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>草の根技術協力や細谷隊員の野菜栽培への協力では、地元に根付いている伝統的なやり方を尊重したうえで、新しいやり方へ変えることでの健康面や効率面のメリットをしっかりと伝えていました。今できれば良い、ではなくて、隊員さんが離れても技術が根付くように、と未来を考えながら活動することの大切さを感じました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>北海道や東北の農業技術が、土も気候も全く異なるザンビアで生かされていることに、とても衝撃を受けました。「作る農業」から「収益になる農業」へ向けてザンビアの方々と一緒に汗を流す人々と出会い、新しい挑戦のために必要なことは、たくさんの物ではなくて、お互いに尊重しあい、協力し合う気持ちなんだと気づかされました。</p>		





# 研修日記






7月 31日	研修名 ザンビア研修 4 日目	氏名 小坂橋 祥記
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>①デスティニーコミュニティスクール訪問</p> <ul style="list-style-type: none"><li>子どもたちからの歓迎の合唱・踊り</li><li>学校見学</li><li>生徒との交流</li><li>マテロコンパウンド地区にあるマーケットと子ども達の家庭訪問</li></ul> <p>②デービッドカウンダSTEM中等学校</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒との交流</li><li>じゃんけん大会</li></ul>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>本日はザンビアにある学校を2つ訪問しました。ザンビアの子どもたちからの大合唱、踊りのパフォーマンスを見て感動のあまり、涙が出ました。心からの、本気の、情熱がこもった行動は人を突き動かすのだと身をもって体感しました。授業を見学した際には、机や椅子がなくても子どもたちと教師がお互い本気で学びを深め合っていて、モノ、環境を言い訳にできないと感じました。STEM教育に力を入れているデービッドウガンダ中等学校は、寮も完備するなど、とても整備された学校でした。ザンビア政府が2020年に国内に導入した、5つしかないSTEM教育に力を入れている学校の1つだったそうです。将来を担う子どもたちを国をあげて本気で育てていきたいという雰囲気はこの学校から学びました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>1日を通して、ザンビア人の強い「おもてなし」の精神を感じました。歓迎の大合唱、踊り、お昼ご飯を大盤振る舞いしてくれるなど、日本でもかつて話題になった「おもてなし」とは何かを考えるきっかけにもなりました。初等教育、中等教育をこれまで見てきて、システムや環境をはじめ、日本との違いを感じる事がとても多かったです。日本でもザンビアでも、教育が全ての基盤になると強く感じました。デスティニーコミュニティスクールにて、ある先生が「子ども達の将来のためになるのであれば、私はなんでもやる」と話してくれた先生がいました。同じ教員の同志として、とても身が引き締まりました。また、じゃんけんは世界のどこにいても盛り上がるゲームです。おすすめです。</p>		



# 研修日記



8月 1日	研修名 ザンビア研修5日目	氏名 青山 紘子
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>衛生の改善を通してザンビアの生活の質と健康の向上を目指しているDziko Langa（ジコランガ）という子どもたちの組織の取り組みを視察しに行きました。ティッピータップと呼ばれる簡易手洗い設置場をゼロから組み立てる様子を拝見しました。また、国立ルサカ博物館で日本とザンビアの外交関係樹立60周年の展示とセレモニーを拝見しました。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>水の大切さや手洗いについての意識を高める取り組み、現在の衛生環境を見てどのようなことが問題なのかを、子どもが自ら考える活動を行っていました。ティッピータップと呼ばれる簡易手洗い場はDziko Langa（ジコランガ）の子どもならば誰でも組み立てられるそうです。また、ルサカ博物館でのセレモニーへ参加し、ザンビアと日本には外交関係樹立60周年という長い歴史があることが分かりました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>Dziko Langa（ジコランガ）はどのような組織か、またどんな活動を行っているのかといったことを知りました。特に、自発的に子どもが水や手洗いの大切さを考え発信していく様子に驚きと感銘を受けました。このプロジェクト視察を通して、自分がいかに衛生面についての意識がないか、そして日常生活での手洗いや学校での声掛け等に関しても、顧みる機会となりました。さらに、60周年セレモニーでは日本とザンビアの深い関わりを感じました。</p>		





# 研修日記



8月 2日	研修名 ザンビア研修 6日目	氏名 杉村 萌
-------	----------------	---------

## ●研修の内容、行なったこと

ルサカ市のゴミ処理場を見学した。スタッフの方から、ルサカ市のゴミがどのように集められ、どのように処理をしているかを伺った。また処理によって出る排水の行方、その有害な排水された水を処理する方法なども伺うことができた。

一方で、埋め立て地の場所の確保や、収集率の低さ、ごみの処理について市民の意識の低さ、健康被害など、問題は山積している現実についても教えていただいた。ゴミ処理場には、ゴミを拾って生計をたてている人の姿もあり、ルサカ市の現実を、目の当たりにした。



## ●研修で得た学び

日本もかつてゴミ問題は深刻であり、ザンビアも日本が過去に経験した問題をかかえている（過去の日本と同じ道を辿っている）。暮らしの中でゴミは切っても切り離せない問題であり、見て見ぬふりはできない。日本も埋め立て地がなくなりつつあり、あと約20年で埋め尽くしてしまうとされている。埋め立て地問題や健康問題は日本と共通している部分もあると感じた。しかし、ザンビアに住む人にとってゴミ問題は健康に影響を与え、解決しないとイケない緊急度は深刻だということがわかった。



## ●研修を受けて感じたこと

実際にゴミの山を歩くと、におい、自然発火した有害な煙が強烈で、少し歩くだけでも、息苦しさを感じた。このにおいや煙を吸い続けているスカベンジャー（※）、そばにあるコンパウンドで暮らす人々の健康に与える影響は容易に想像ができる。この事実を目の当たりにしたとき、言葉では言い表せない感情になった。日本に帰った時に何ができるだろう？子どもたちに事実を伝えた時に何を感じ取ってくれるだろう、自分たちにできることは？日本も同じ問題がある。どう子どもたちに伝えていくか、また1人の地球人として何ができるか、もやもやした、なんとも言えない感情である。子どもにだけでなく、私も1人の人として考えさせられる経験であった。

また、研修後半は、アグリカルチャーショーを覗いてみたり、在ザンビア日本大使館へ表敬訪問をしたりした。大使と直接お話できたことも貴重な経験であった。最後にJICA事務所へ行き、所長へ今回の研修報告をした。

夜は協力隊員との懇親会もあり、現地での活動の様子や協力隊の仕事等についても伺うことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

いよいよ明日は最終日である。まだまだ滞在したい思いであるが、最終日も存分にザンビアを味わいたいと思う。



※スカベンジャー…ゴミ等を食物とする生物。転じてゴミを拾い集めて生活する人を指す。



# 研修日記



8月 3日	研修名 ザンビア研修7日目	氏名 田中 眞
-------	---------------	---------

## ●研修の内容、行なったこと

ルサカ国立公園（象の孤児院）に入り、2台の車で公園内を移動した。インパラ数頭と足を怪我しているキリンの姿が見られた。4月から3ヶ月間、雨が降っていないことから草は茶色に変化し、緑が少ないように感じた。日差しも強いので、虫も肉眼で見つけることができなかった。象の孤児院では、象を見学できる専用の建物に入り、子象5頭の様子を観察することができた。



## ●研修で得た学び

日本の動物園では見ることができない象の習慣を観察することができた。象が敷地内に入ると、準備されているミルクを飲み、その後は水浴びと鼻を使って全身に砂をかけていた。砂がなくなってくると寝そべり体に砂をこすりつけていた。落ち着いたあとは、地面においてある枝についた葉を食べていたが、乾燥しているためか、池の水に浸してから食べている象もいた。3歳になるとこの孤児院を卒業し野生に戻されるシステムである。



## ●研修を受けて感じたこと

親象が殺され象牙が取られる問題は、人間のお金優先であり象の絶滅を考えない行動である。これも子どものうちからの教育が必要であると考え。象牙を高額で取引する環境は、いち早く取りしめる必要があるが、実際は時間がかかりそうである。また、住民が育てた作物を象などが食べに来る問題は、北海道で今起きている熊との関係と重なる。アフリカでは殺さずに、刺激があるスパイスで段階を追って遠ざけている。スパイス空気銃は熊に効くのかなと疑問に思ったが、これを応用し日本でも熊を殺さず共存できていければと感じた。





# 研修日記






8月 4日	研修名 ザンビア研修8日目	氏名 平山 将典
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>昨夜ルサカ発ドバイ着の飛行機に搭乗。機内では夕食と朝食をいただきました。飛行機の到着が遅れたために、次の飛行機に乗り継ぐことができず、急遽予定を変更しドバイでの1日滞在。</p> <p>北海道チームは、ショッピングモールで買い物やドバイの有名な建物を見て回るバスツアーに参加しました。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>参加者の先生たちは疲労困憊のはずでしたが、逆にここでエネルギーを発揮しました。機内ではあまり寝れなかった人もいたにも関わらず、乗り遅れた時点でドバイのどこに行こうか、考えていた人もいました。参加者の皆さんのバイタリティーに感心すると同時に、アドバイザーが研修期間中に「心身ともに健康で元気であることが教員には必要。そして何事にも挑戦する勇気が必要だ」と、話されていたことを思い出しました。まさに今ここにいる教員の方々には、元気と勇気が備わっています。児童生徒にも、そのパワーは生活を通して間違いなく伝わりますし、元気と勇気を常に持つ教員でありたいと改めて感じました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>ドバイには大量の水を使った噴水のショーやたくさんの電子掲示板、整った交通インフラなど、あらゆる場面において富の力を感じました。一方、我々が1週間程滞在したルサカでは水道や電気、交通などのインフラが不十分なこと、見慣れてしまった大量のゴミ、コンパウンドで暮らす家族の現状など、貧困地域であることを実感しました。世界一の富裕国と貧困国、これほどタイムリーに両国の貧富の差を感じることはなかなかありません。なぜ、こんなにも不平等なのか。しかし、ザンビアでも笑顔で幸せそうな人はたくさん見てきました。不平等な世界でも、幸せは人の感じ方や生き方によって変わるのだと感じました。</p>		



# 研修日記



8月 5日	研修名 ドバイから羽田に出発	氏名 青山 紘子
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>ザンビアからドバイでの一日を経て、羽田空港に到着するという流れでした。ドバイ空港へ早朝に到着し、賑やかな空港を経験しました。そして、飛行機の中では機内食のメニュー選びや飲み物の選択を通じて、英語の実践の重要性を実感しました。羽田空港に到着後は、ホテルへ向かう準備を整え、異国から帰国する過程を含めた一連の流れを体験しました。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>研修を通じて、物価や街並みの違いから各国の文化的な特徴が明確に表れていることを学びました。また、機内食の選択や飲み物の注文を実際に行うことで、英語の使用がどれほど日常生活に役立つかを実感しました。さらに、異なる環境が食事や感覚に与える影響についても理解を深めることができました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>異国での体験を通じて新しい感覚を得るとともに、自国の文化や生活を振り返る貴重な機会となりました。帰国の際には、日本人らしき人々が多く見られ、帰国の実感が強まりました。機内食の最後の食事が少し寂しく感じられる一方で、さまざまな体験が心に残りました。</p>		





## 帰国後研修 プログラム

日時：2024年9月14日(土)、15日(日)

場所：かでの2.7 道民活動振興センター

参加：研修参加者8名（北海道）、開発教育アドバイザー2名、JICA北海道、青年海外協力協会（JOCA）

目的：①ザンビアでの研修を通して収集した情報整理/共有を行う。②各自が作成した指導案の共有/検討作業を通して改善点を明確にし、よりよい教材化を行う。

### 【プログラム 1日目】

時間	内容	担当者/講師
14:30	5分 開会 帰国後研修プログラム確認	JICA 挨拶 JOCA 進行
14:35	40分 「ザンビアへ行く前の私と行ってからの私」 ～学びの収穫と共有～(1人5分)	参加者8名
15:15	50分 指導案発表・指導案検討(50分・休憩10分) ① 松村先生 15:15～16:05 橋詰アドバイザー	松村先生
16:15	50分 指導案発表・指導案検討(50分・休憩10分) ② 杉村先生 16:15～17:05 水谷アドバイザー	杉村先生
17:15	50分 指導案発表・指導案検討(50分) ③ 田中先生 17:15～18:05 橋詰アドバイザー	田中先生
18:05	25分 事務連絡	JOCA 進行
18:30	1日目終了	

### 【プログラム 2日目】

時間	内容	担当者/講師
9:00	5分 開会	
9:05	50分 指導案発表・指導案検討(50分・休憩10分) ④ 青山先生 9:05～9:55 水谷アドバイザー	青山先生
10:05	50分 指導案発表・指導案検討(50分・休憩10分) ⑤ 小板橋先生 10:05～10:55 水谷アドバイザー	小板橋先生
11:05	50分 指導案発表・指導案検討(50分) ⑥ 平山先生 11:05～11:55 橋詰アドバイザー	平山先生
11:55	45分 昼食	
12:40	50分 指導案発表・指導案検討(50分・休憩10分) ⑦ 川上先生 12:40～13:30 水谷アドバイザー	川上先生
13:40	50分 指導案発表・指導案検討(50分) ⑧ 中尾先生 13:40～14:30 橋詰アドバイザー	中尾先生
14:30	30分 事務連絡	JOCA 進行
15:00	終了	



# 研修日記



9月 14日	研修名 帰国後研修 1 日目	氏名 小板橋 祥記
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>①「ザンビアへ行く前の私と行ってからの私」～学びの収穫と共有～ 参加者一人一人が5分間で自身の研修を通して感じたことを発表しました。</p> <p>②指導案共有&amp;検討</p> <p>松村先生：ザンビアマスターになろう！ 杉村先生：ほかのくにの 人たちと 田中先生：SDGsを通して、国際協力ができる生き方を考える</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>一人一人がザンビア研修に対して考えていることが千差万別、そして授業を通して子どもたちに考えて欲しいこと・感じて欲しいことも千差万別。授業づくりの観点から、水谷アドバイザーより「目的と手段を履き違えないこと」「何かを伝えるときは明確にし、カテゴリを絞って考えること」に気をつけることをご教授いただきました。また、JICAの桐山さんから「途上国に対する授業者のバイアスを授業に反映させないことが大切です」との話を聞き、フラットな視点で授業を受ける子どもたちに感じてもらうことが重要であると学びました。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>研修冒頭、桐山さんが「参加者の皆様が苦しむのを見るのを楽しみにしています。」と言った瞬間、会場の時が止まりました。（笑）桐山さん曰く、「今回の授業を、考え苦しみながら磨いて磨いて美しいものにしてほしい」との話を聞き納得。さまざまな視点からの意見が飛び交う指導案検討では、アドバイザーの先生方を中心に、「北海道チームで子どもたちにいい授業を！」といった雰囲気を感じました。</p>		





# 研修日記



9月 15日	研修名 帰国後研修2日目	氏名 田中 眞
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>教員5人の授業指導案の発表とその検討を行った。様々な校種の教員が、それぞれの授業研究を行うための幅広い視点で話し合いを進めることができた。ある指導案では、実際に課題に対してロールプレイを行いながら立場を理解し、これから起こりうる問題点を予想することができた。また別の指導案では、教員がオリジナルで考案したゲームを試しながら、効果的な活用方法や問題点を探ることもできた。更に、生成AIを活用しながら、授業で使うストーリーに合うイラスト作成なども試し、効果的な進め方を議論することができた。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>小学校、中学校、高校、特別支援学校のそれぞれの教員が、指導する年代に合わせた授業を考え、その伝えたいポイントをどうとらえ工夫しているかを理解することができた。課題に対しての知識や経験が少ない小学生に対しては、理解度を深めるためにどのように伝えるべきかを検討する必要がある、その状況から伝える順番などを考える丁寧な指導の重要性を感じる事ができた。ある中学校の先生は、教員が制作したカードゲームを活用することで、意欲を引き出すことを大事にしていた。高校生には、考えさせるポイントを設定し、発想力を引き出すことが重要であると感じた。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>今回の研修では、CANVAのアプリケーションを使うことで、自分の描いたストーリーを生成AIで作成できる事を知り、今後の授業の幅を増やすことができる可能性を感じた。また、SDGsに関するカードゲームも中学生を指導する上では多用されており、授業で生徒の意欲を引き出す工夫がなされていることを感じた。たくさんのアイデアを出し合い、お互いに考え合うことで自分の指導に対する考えを深めることができた。</p>		



# 成果報告会 プログラム(1日目)

日時：2025年1月11日(土)

場所：JICA 北海道(帯広)センター、対面とオンライン実施

参加：研修参加者8名(北海道)、開発教育アドバイザー2名、一般参加者、  
JICA 北海道、青年海外協力協会(JOCA)

12:45	受付開始		
13:00~ 13:05	成果報告会スタート 開会挨拶 JICA 北海道(帯広) 道東業務課		JICA 帯広
13:05~ 13:25 (20分)	本研修の概要(授業づくりの視点を含む) 音更町立木野東小学校 杉村萌 教諭		杉村萌 教諭
13:25~ 14:25 (60分)	模擬授業体験①【生活・保健体育・総合】(授業40分、振り返り20分) 「健康な生活のために～Health Living I see you～」 中富良野町立中富良野小学校 平山将典 教諭		平山将典 教諭
休憩(5分)			
14:30~ 15:30 (60分)	模擬授業体験②【道徳】(授業40分、振り返り20分) 「マフンジロが世界を変える？」 標茶町立標茶中学校 小坂橋祥記 教諭		小坂橋祥記 教諭
休憩5分(移動を含む)			
【教材紹介セッション①】			
15:35~ 16:05 (30分)	■A【総合的な学習の時間】 「世界の水とわたしたちの暮らし」 鹿追町立鹿追小学校 川上光陽 教諭	■B【総合的な学習の時間】 「自分たちの生活を見直そう」 当別町立西当別中学校 中尾綾香 教諭	中尾綾香 教諭
休憩5分(移動を含む)			
【教材紹介セッション②】			
16:10~ 16:40 (30分)	■A【国際理解・総合】 「この問題を解決すれば済む問題？」 帯広商業南高等学校 青山紘子 教諭	■B【生活単元学習】 「ザンビアマスターになろう」 北海道札幌聾学校 松村秀明 教諭	松村秀明 教諭
休憩5分(移動を含む)			
【教材紹介セッション③】			
16:45~ 17:15 (30分)	■A【道徳・国語・学活】 「ほかのくにの 人たちと」 音更町立木野東小学校 杉村萌 教諭	■B【総合的な探究の学習】 「ザンビアの魅力とこれからの課題 ～ニムコンダアフリカ～」 北海道千歳高等学校 田中眞 教諭	田中眞 教諭
17:15~ 17:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者からの感想の共有・アドバイザーからのコメント</li> <li>JICAからの諸連絡</li> </ul>		



# 研修日記



1月 11日	研修名 成果報告会 1日目	氏名 川上 光陽
--------	---------------	----------

## ●研修の内容、行なったこと

○本研修の概要説明（授業づくりの視点を含む）

○模擬授業体験

- ①平山将典教諭 ②小坂橋祥記教諭

○教材紹介セッション

- A ①川上光陽教諭 ②青山紘子教諭 ③杉村萌教諭

- B ①中尾綾香教諭 ②松村秀明教諭 ③田中眞教諭

○振り返り

- ・参加者からの感想の共有
- ・アドバイザーからのコメント



## ●研修で得た学び

・JICA北海道（帯広）で行われた成果報告会には、対面・オンラインを含め40名近くの方に参加していただいた。報告会に向けて準備をする過程で、自分の実践をもう一度見つめ直し、授業のねらいや成果と課題を整理することができた。今後も授業づくりを続けていく上で必要不可欠な時間だったと思うので、このように、たくさんの方に興味をもって聞いていただくことができる場があって本当に良かったと思う。

・共に現地研修や指導案検討を行ってきた先生方が、どのような授業を行い、子どもたちからどんな反応を得たのか、情報共有することができた。授業づくりの進め方や考え方などを、改めて深く学ぶこともできた。

・参加者の方々やアドバイザーからは、たくさんの助言をいただいた。ザンビアの水不足を取り上げた授業について、防災教育や食育の観点からアドバイスをいただき、授業づくりの幅が広がる発想が得られた。



## ●研修を受けて感じたこと

・小/中/高/特別支援の様々な校種の先生方が、それぞれの視点からザンビアで感じた熱い想いを込めて作った教材を体験することができ、今後の実践に向けてさらにモチベーションが高められた。

・この成果報告会を通じて、伝え方の工夫について考えさせられた。20分で、ザンビアのことを知らない方や教員ではない方もいる中で、教師海外研修や開発教育・国際理解教育に興味を持ってもらうためにどのような発表にしたらよいか。頭を悩ませることもあったが、発表後には参加者の方々から温かいコメントをいただき、自信をもつことができた。日々の授業実践に加えて、こういった発信の機会を大切にしていくことも、この研修に参加した私たちができることだと感じた。



2024年度 JICA北海道教師海外研修（ザンビア）

## 成果報告会 プログラム(2日目)

日時：2025年1月12日（日）

場所：JICA 北海道(帯広)センター


参加：研修参加者8名（北海道）、開発教育アドバイザー2名、JICA 北海道、  
青年海外協力協会（JOCA）

9:00	スタート	
9:00~ 9:30 (30分)	<b>【前日研修の振り返り】</b> ・昨日の授業をふりかえって	JOCA 石井優子
9:30~ 11:00 (90分)	<b>【学びの共有】 KJ法にて</b> ・「学び」を振り返る ① 事前・事後研修(人とのつながり) ② 現地研修 ③ 授業づくり  ※①~③、3色付箋を分ける ★別途スペシャル付箋あり	進行： 橋詰アドバイザー (札幌)  コメント： 水谷アドバイザー (帯広)
11:00~ 11:10 (10分)	休憩	
11:10~ 11:50 (40分)	<b>【今後学んだことをどう現場で活かすか・継続していくか】</b>	進行： 橋詰アドバイザー (札幌)
11:50 ~ 12:00 (10分)	JICA からの諸連絡	JICA



# 研修日記



1月 12日	研修名 成果報告会 2日目	氏名 松村 秀明
<p>●研修の内容、行なったこと</p> <p>昨夜の交流会の疲れもある中（笑）、みんな一同で集まるのは最後の日。しかし、元気いっぱい笑顔で集まってくる。</p> <p>最初に、前日の研修の振り返りを行う。2つのグループに分かれてKJ法で学びの振り返り。付箋黄色は、事前事後研修（人のつながり）。付箋緑色は現地研修で学んだこと。付箋青色は、授業づくり。それぞれ、学んだことをカテゴリー化する。</p> <p>休憩をはさみ、参加した先生一人一人が、今後学んだことをどう現場で生かすか、継続していくか、抱負を語る。</p> <p>そして、水谷アドバイザー、橋詰アドバイザーから話があり、感動の中、成果報告会が終了した。</p>		
<p>●研修で得た学び</p> <p>参加型の授業で大切なこと</p> <p>①参加型の授業では、必ず「振り返り」がないと意味がない。ゲームなどをやって、やりっぱなしで振り返る時間がないと、ただ楽しいで終わってしまい学びが少ない。</p> <p>②教師の「願い」がなければいけない。子どもたちにどういう力を身に付けて欲しいのか。例えば、発表する力、課題を解決する力など。</p> <p>③授業には必ず「3つの観点」（i 知識・技能、ii 思考力・判断力・表現力等、iii 主体的に学習に取り組む態度）の評価を忘れないこと。</p> <p>④最後は教師力。人間性。</p>		
<p>●研修を受けて感じたこと</p> <p>小学校、中学校、高校と異校種の先生方がいるので色んな見方、考え方を学ぶことができた。高校の先生は、生徒も就職や進学と社会に直結しているので自分はどうやって生きるのかということを考えてさせている。</p> <p>小学校では、まずは、知ることが第一歩である。知らないことの怖さ、知ることの喜びや楽しみを。そして、中学校では、その学びをより深め、つながりを広げていく。</p> <p>授業づくりでは、児童・生徒に教師がインスパイアされることが究極の授業だと感じた。</p>		